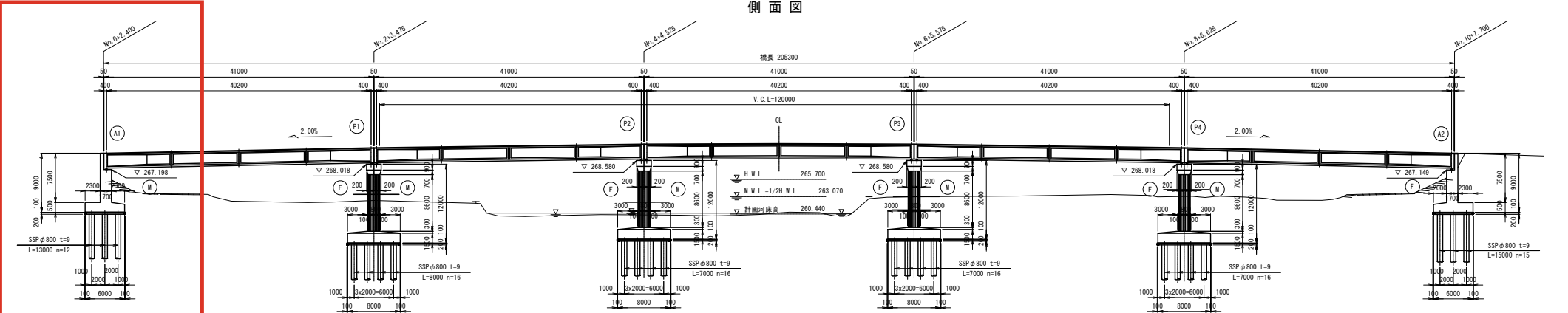
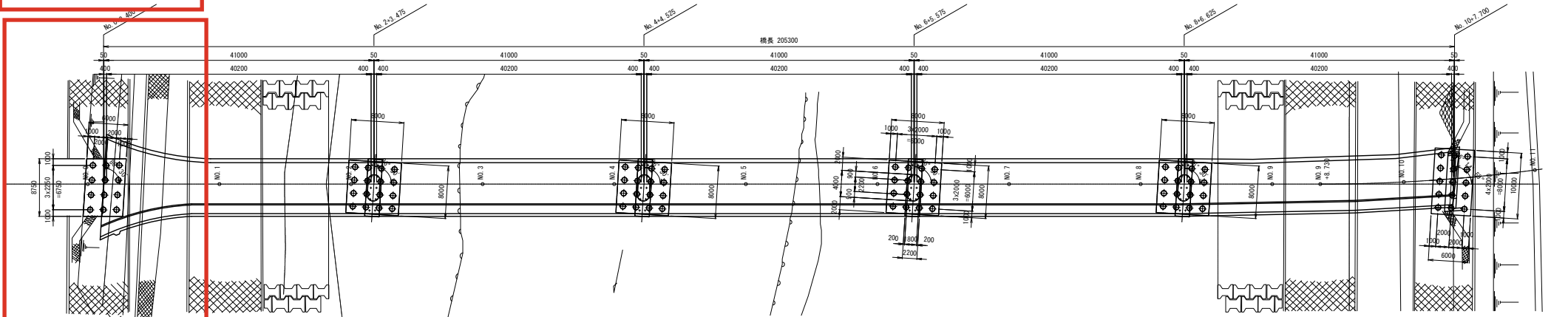


万年橋 現況一般図 S=1:300

側面図

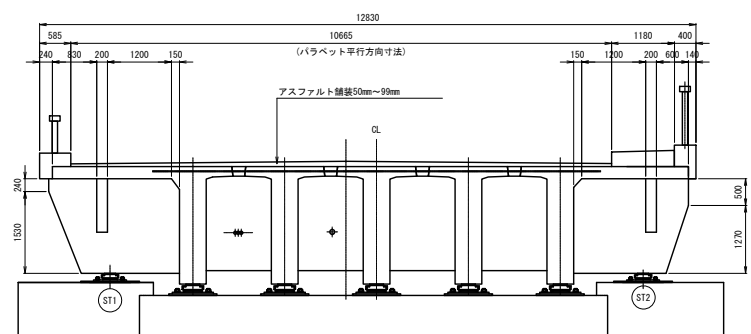


平面図



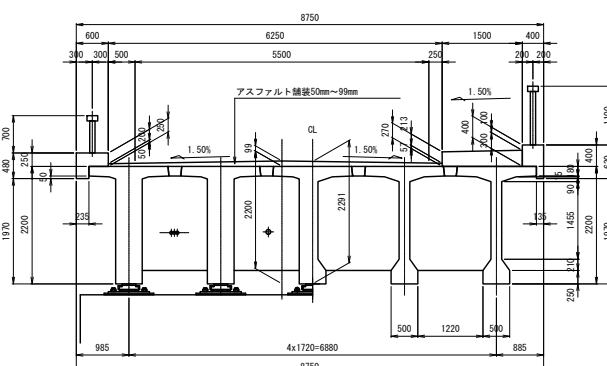
橋台拡幅部断面図

S=1:50



標準断面図

S=1:50



設計条件	
形式	ポストテンション方式PC単純T桁橋(5連)
橋格	一等橋(TL-20)
橋長	205.300m
支間長	5@40.200m
総幅員	12.290~8.750m
有効幅員	車道6.250m~10.125m 歩道1.180m~1.500m
縦断勾配	±2.0%放物線勾配
横断勾配	車道1.5%放物線勾配 歩道1.5%直線勾配
舗装	車道 アスファルト舗装50mm~99mm厚
斜角	A1~P4: 86° 30' 00" A2: 82° 14' 59" (実測より)
雪荷重	なし
水平震度	K0=0.20
備考	

参考図

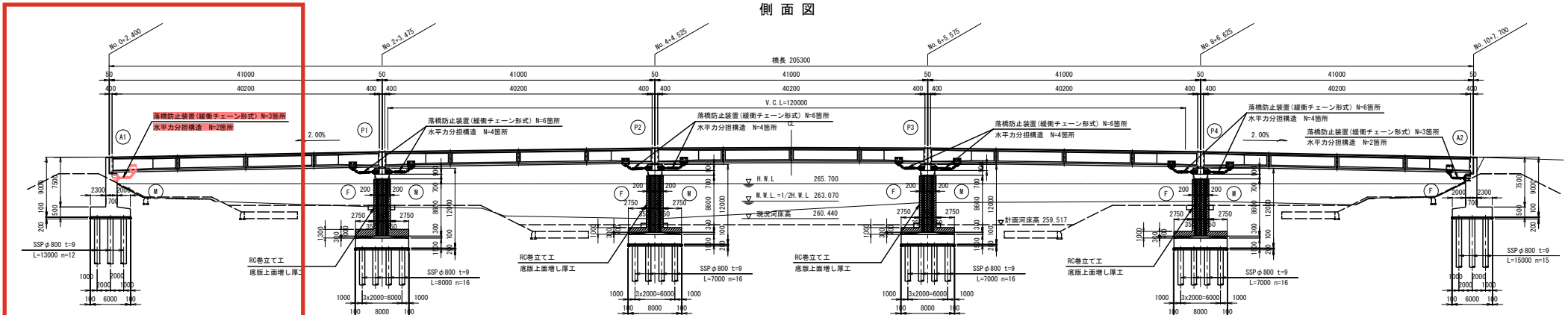
- 注記:
- 施工前に必ず、現地計測を行って補修箇所、範囲形状等を確認し、現地状況と設計図面との整合を確認した上で施工すること。
 - 本図面は、既存資料・現地計測を元に作成した図面である。

工事名	市道 1-10号線
図面名	万年橋 現況一般図
作成年月日	令和元年8月
縮尺	図 示 図面番号 1 / 117
会社名	
事業名	苗 吹 市

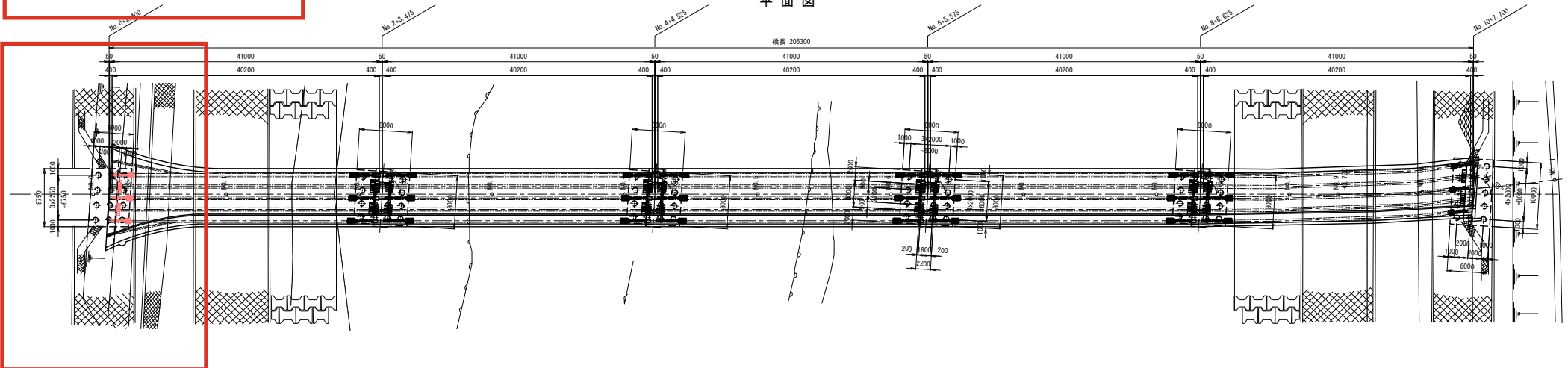
万年橋 耐震補強一般図

S=1:300

側面図

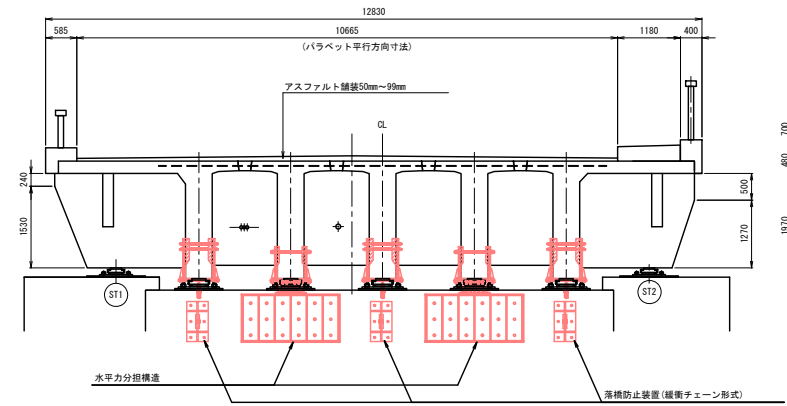


平面図



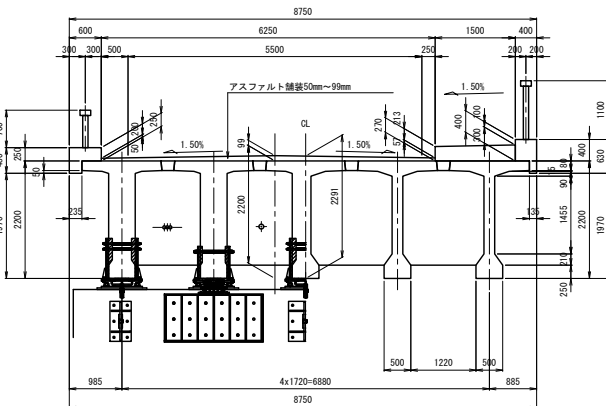
A1橋台拡幅部断面図

S=1:50



標準断面図

S=1:50



対策工	補強箇所
RC巻立て工	P1~P4 計4基
底版上面増し厚工	P1~P4 計4基
水平力分担構造設置	橋台: 各2箇所 橋脚: 各4箇所 計20箇所
緩衝チェーン設置	橋台: 各3箇所 橋脚: 各6箇所 計30箇所
橋脚めブロック工	P1, P4: 各204個 P2, P3: 各104個 計616個

- 注記:
- 施工前に必ず、現地計測を行って補修箇所、範囲形状等を確認し、現地状況と設計図面との整合を確認した上で施工すること。
 - 本図面は、既存資料・現地計測を元に作成した図面である。

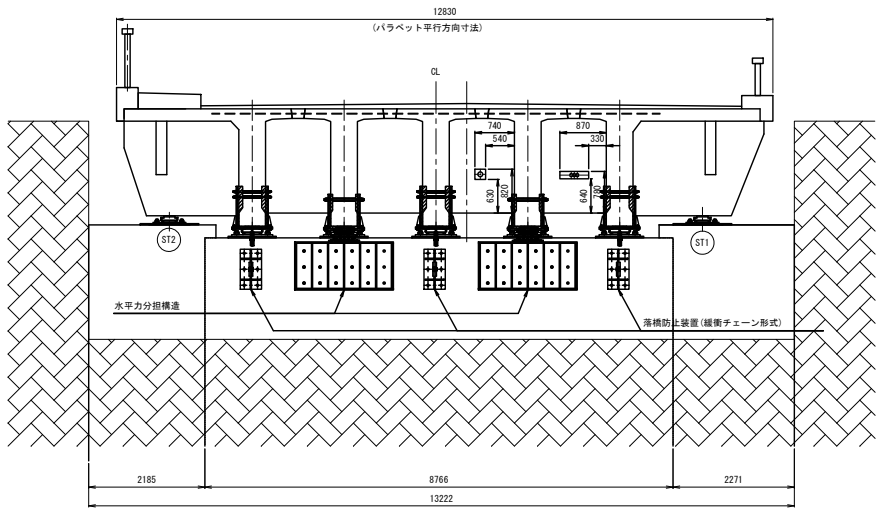
工事名	市道 1-10号線
図面名	万年橋 耐震補強一般図
作成年月日	令和元年8月
縮尺	図示 図面番号 2 / 117
会社名	
事業名	苗 吹 市

実施

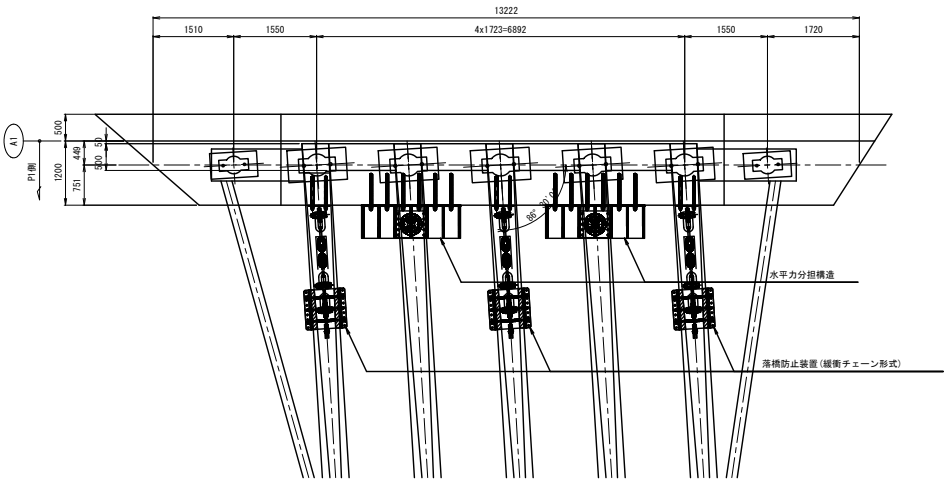
万年橋 A1橋台耐震補強配置図

S=1:50

正面図

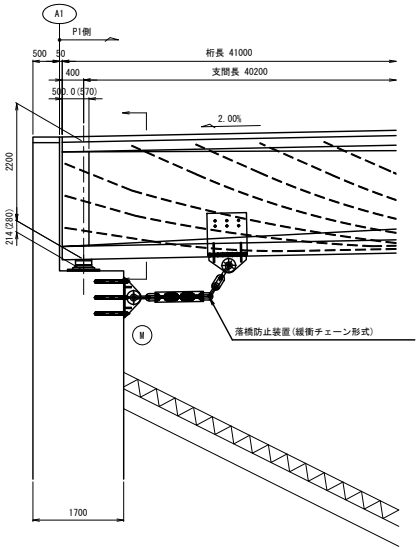


平面図



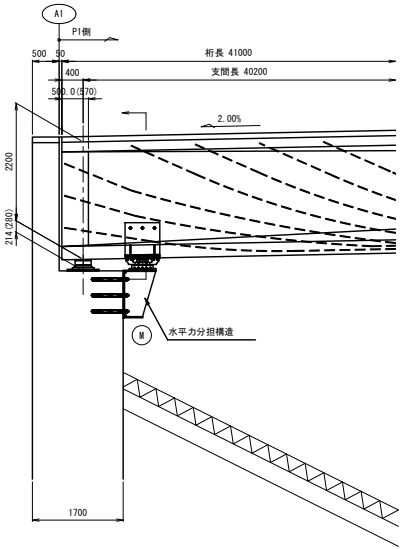
側面図

落橋防止構造設置部

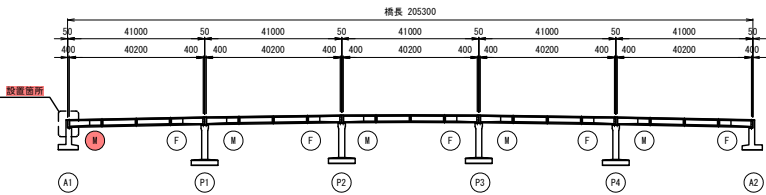


側面図

水平力分担構造設置部



配置図 S=1:800



注記:
1. A1部の寸法は全て実測した値である。但し、実測による誤差もあるため、設計上影響しない寸法については想定とする。

実施

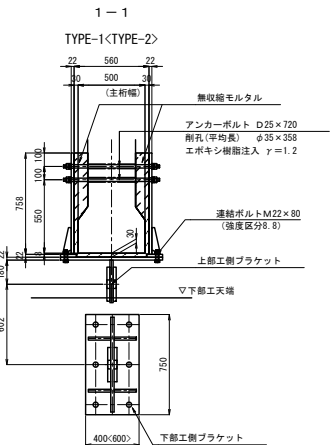
工事名	市道 1-10号線		
図面名	万年橋 A1橋台耐震補強配置図		
作成年月日	令和元年8月		
縮尺	図 示	図面番号	3 / 117
会社名			
事業名	苗 吹 市		

万年橋 落橋防止システム取付構造図(その1)

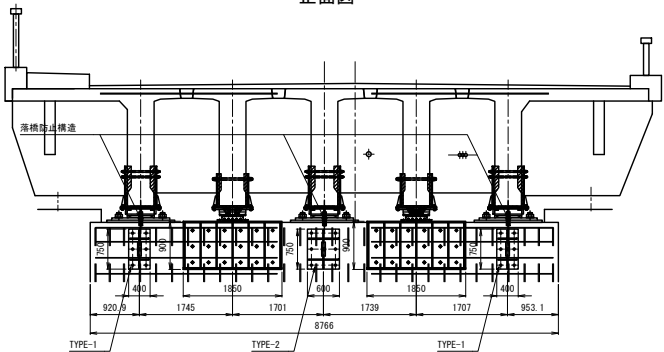
S=1:50

A1橋台：落橋防止装置

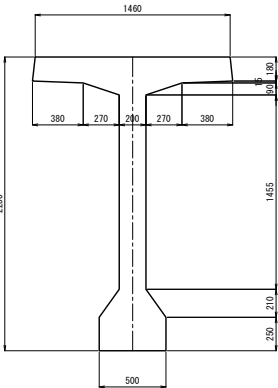
断面図 S=1:20



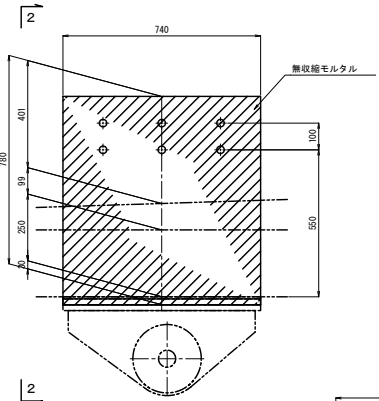
正面図



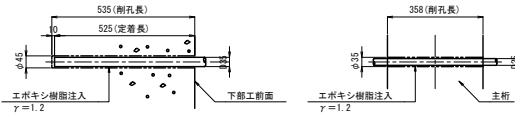
既設桁詳細図 S=1:20



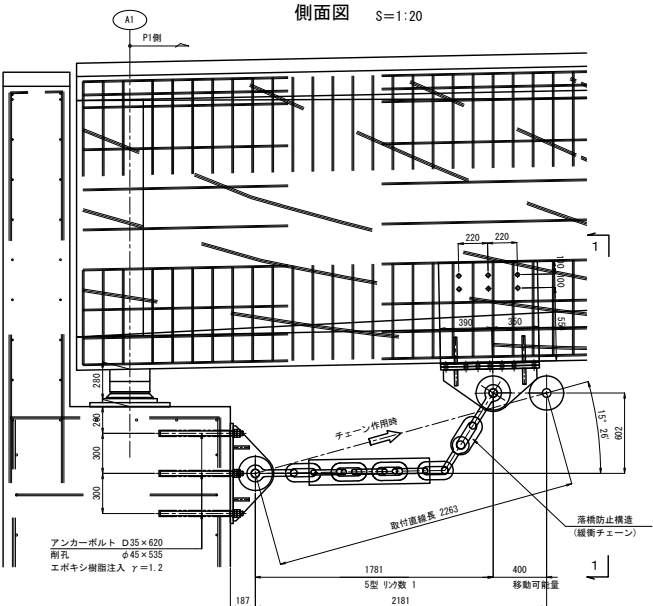
無収縮モルタル詳細図 S=1:10



コンクリート削孔詳細図 S=1:10

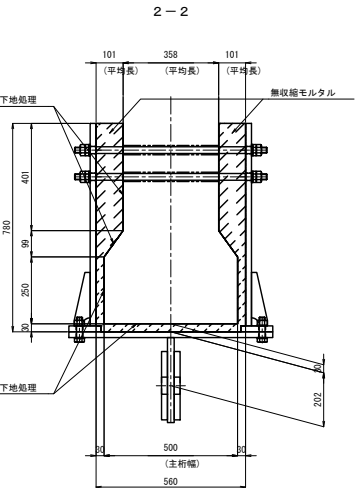
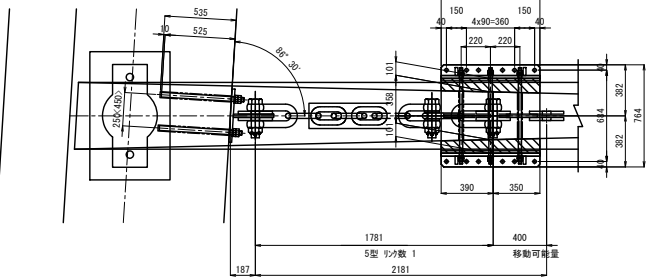


側面図 S=1:20



平面図

TYPE-1<TYPE-2>



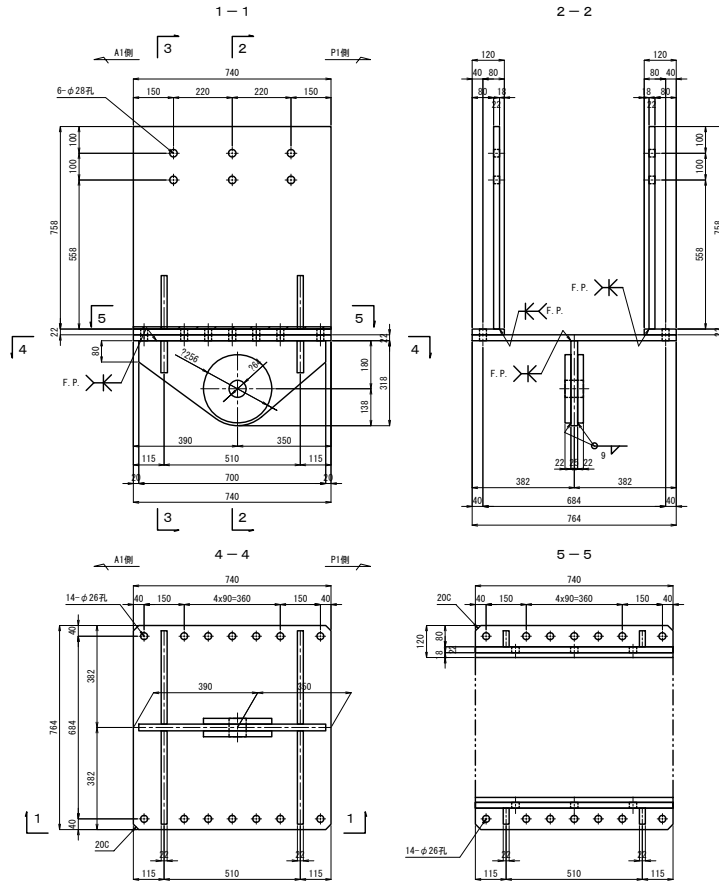
- 注記:
1. 図中詳細寸法は、足場架設後現地実測の上決定のこと。
 2. 上部工側削孔は、鉄筋探索を行い既設鉄筋を切断しないように留意すること。
 3. プラケット取付面は、下地処理を行うこと。
 4. 無収縮モルタルの設計基準強度は、 $\sigma_{ck}=40\text{N/mm}^2$ 以上とする。

実施

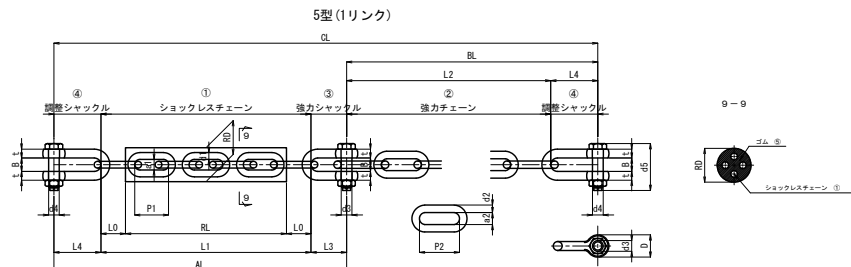
工事名	市道 1-10号線		
図面名	万年橋 落橋防止システム取付構造図(その1)		
作成年月日	令和元年8月		
縮尺	図 示	図面番号	6 / 117
会社名			
事業者名	苗 吹 市		

S=1:10

下部エブラケット詳細図



チェーン構成図

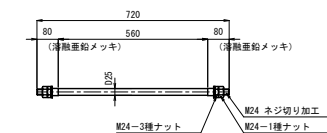


種 別	寸 法 (mm)																											製作数	
	○ ① ショックレスチェーン					○ ② 強力チェーン					○ ③ 強力シャックル					○ ④ 調整シャックル					全長	⑤ ゴム	地震時許容伸び	全長+伸び					
	d1	P1	a1	L1	AL	L0	d2	P2	a2	L2	BL	t	B	D	d3	L3	t	B	D	d4	d5	L4	CL	RD	RL	Z	a		CLmax
5型引く	38	190	60	1180	1644	138	42	225	67	225	489	50	75	125	60	200	55	75	125	60	263	264	2103	190	904	160			2263
																													3 本

材料1基当り (全3基)

1-Base PL	740 × 22 × 764	(SM490A)
1-Top PL	700 × 25 × 318	(SM490A)
2-PL	φ256 × 22	(SM490A)
2-Side PL	740 × 22 × 758	(SM490A)
2-Side PL	740 × 22 × 120	(SM490A)
4-Rib PL	120 × 22 × 350	(SM490A)
4-Rib PL	60 × 22 × 200	(SM490A)
連結ボルト	14-M22×80 (強度区分8.8)	〈1-N, 2-W〉(SS400)

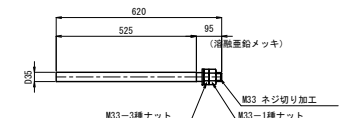
上部アンカーボルト詳細図



材料1基当り (全3基)

6-D25 × 720 (SD345)
12-M24 1種ナット・3種ナット
12-M24 座金

下部アンカーボルト詳細図



材料1基当り (全3基)

6-D35 × 620 (SD345)
6-M33 1種ナット・3種ナット
6-M33 座金

- 注記:
1. ブラケットの製作は、現地調査の上、最終決定のこと。
 2. ブラケットの鋼板及びアンカーボルトのネジ 切り部、ナットワッシャーを下記の通りの溶融亜鉛メッキとする。
- HDZ 55 鋼 板
HDZ 35 アンカーボルト・ナット・座金

实施

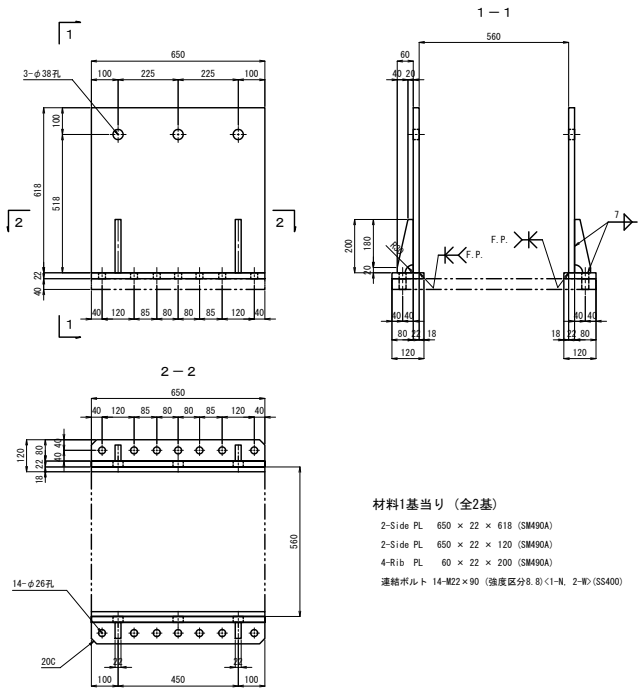
工事名	市道 1-10号線		
図面名	万年橋 落橋防止システム詳細図(その1)		
作成年月日	令和元年8月		
縮尺	図 示	図面番号	26 / 117
会社名			
事業者名	笛 吹 市		

万年橋 落橋防止システム詳細図(その2)

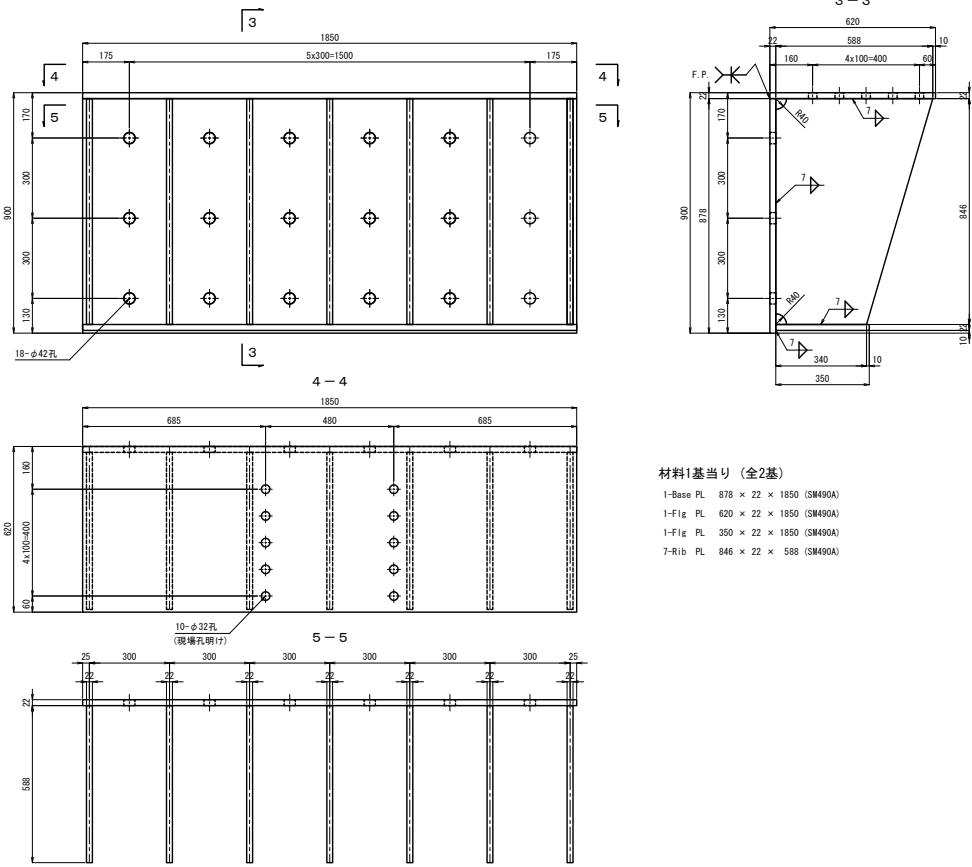
S=1:10

A1橋台：水平力分担構造

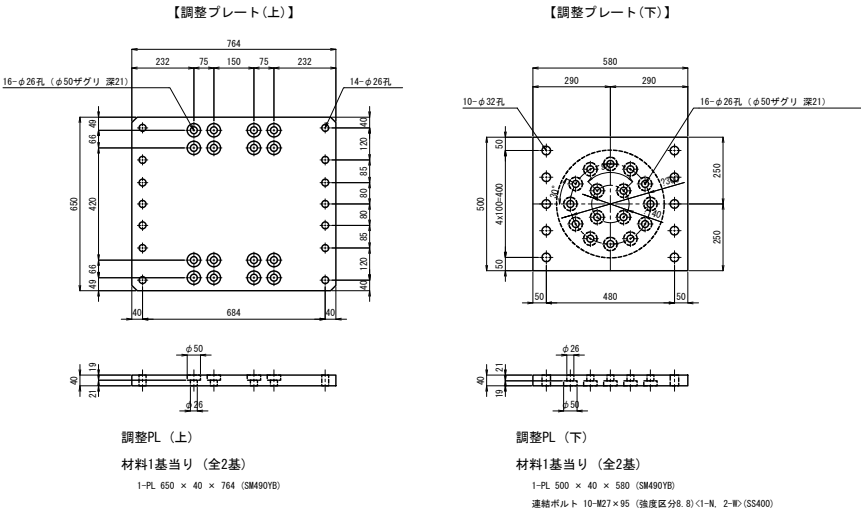
上部エブラケット詳細図



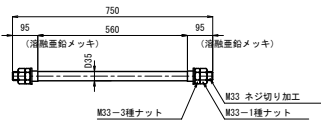
下部エブラケット詳細図



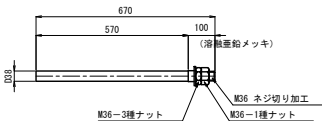
調整材



上部アンカーボルト詳細図



下部アンカーボルト詳細図



注記:

1. プラケットの製作は、現地調査の上、最終決定のこと。

2. プラケットの鋼板・調整プレート及びアンカーボルトのネジ切り部、ナット、座金を下記の通りの溶融亜鉛メッキとする。

HD2 55 鋼板

HD2 35 アンカーボルト

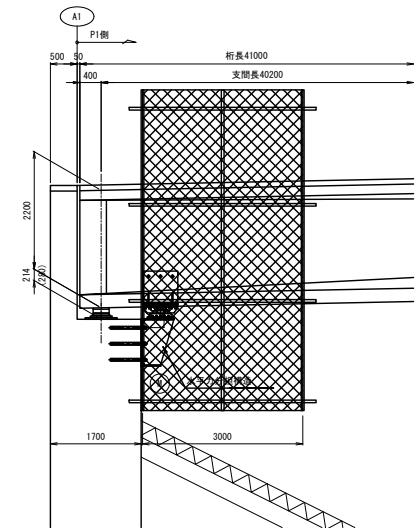
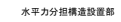
実施

工事名	市道 1-10号線		
図面名	万年橋 落橋防止システム詳細図(その2)		
作成年月日	令和元年8月		
縮尺	図示	図面番号	27 / 117
会社名			
事業者名	苗 吹 市		

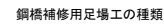
S=1:10

工事名	市選 1-10号線		
図面名	万年橋 落橋防止システム詳細図(その2f)		
作成年月日	令和元年8月		
縮尺	図 示	図面番号	46 / 117
会社名			
事業者名	笛 吹 市		

＜ A1橋台 ＞



配置図 S=1:800



TYPE A1	昇足場 (桁高 $h < 1.5$)	床版補強工・主構造補強工・環境対策工・塗装塗装工
TYPE A2	昇足場 (桁高 $h \geq 1.5$) (中段足場含む)	床版補強工・主構造補強工・環境対策工・塗装塗装工
TYPE A3	昇足場 (足場上で部材移動のある場合や、踏下が道路・軌道等で板張防護が必要な場合) (中段足場含む)	床版補強工・主構造補強工・環境対策工・塗装塗装工
TYPE B	朝顔 (板張防護・シート張防護)	床版補強工・主構造補強工・環境対策工・塗装塗装工
TYPE C	中段足場	床版補強工・主構造補強工・環境対策工・塗装塗装工
TYPE D	中段足場 (ガラ受)	床版補強工・主構造補強工・環境対策工
TYPE E	片側朝顔防護足場	地震補修工・高欄補修工
TYPE F	機頭回り足場 (床版・シート張防護、朝顔・板張防護・シート張防護)	支取取替工・消漏防止工・伸縮装置取替工
TYPE G	枠組足場	支取取替工・消漏防止工・伸縮装置取替工
TYPE H	塗装用昇足場 (桁高 $h < 1.5$)	塗装塗装工
TYPE I	塗装用昇足場 (桁高 $h \geq 1.5$) (中段足場含む)	塗装塗装工
TYPE J	機械足場	
TYPE k	足場防護	

	細 目	計 算 式	単 位	数 量	備 考
足場工	橋脚周り足場 (TYPE-F)	$(13.210 + 2.000) \times 3.000$	m ²	45.6	床面シート張防護、 縦断・板張防護・シート張防護

注記:

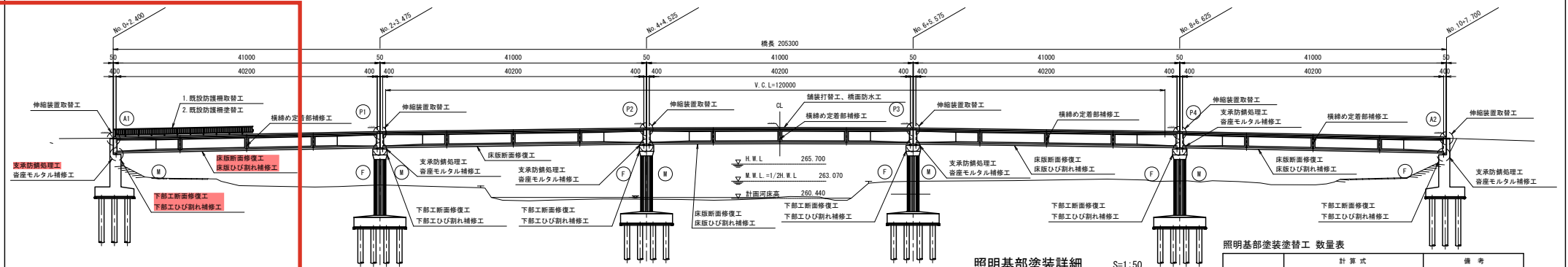
1. AI部の寸法は全て実測した値である。
但し、実測による誤差もあるため、
設計に影響しない寸法については想定とする。

工事名	市道 1-10号線		
図面名	万年橋 橋脚補強工事用足場図・ 落橋防止システム取付要領図(その1)		
作成年月日	令和元年8月		
縮尺	図 示	図面番号	69 / 117
会社名			
事業者名	笛 吹 市		

万年橋 補修工一般図

S=1:300

側面図 S=1:300

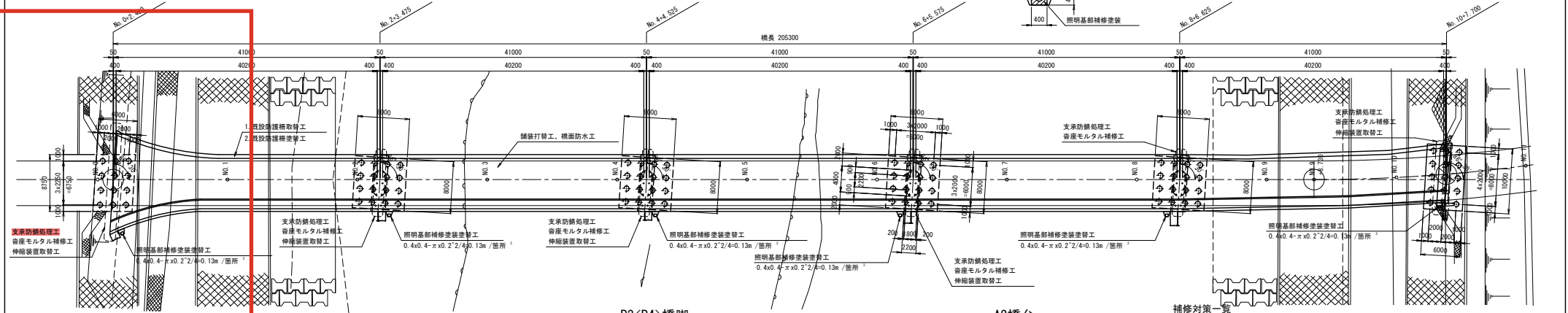


照明基部塗装詳細 S=1:50

照明基部塗装替工 数量表

計算式	備考
塗装面積 0.13m ² × 6箇所 = 0.78m ²	鎮転機型塗装系
素地調整面積 0.13m ² × 6箇所 = 0.78m ²	3種ケレン

平面図 S=1:300



P3<P4>橋脚 S=1:100

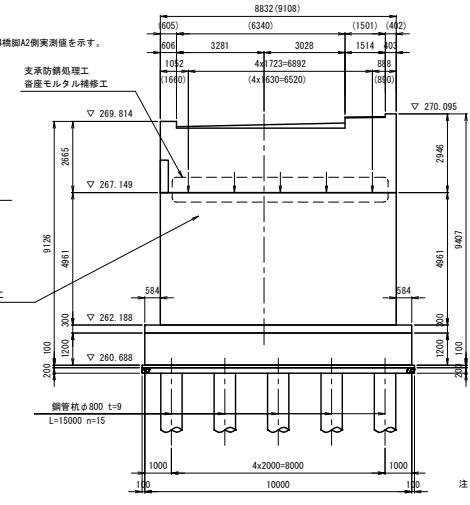
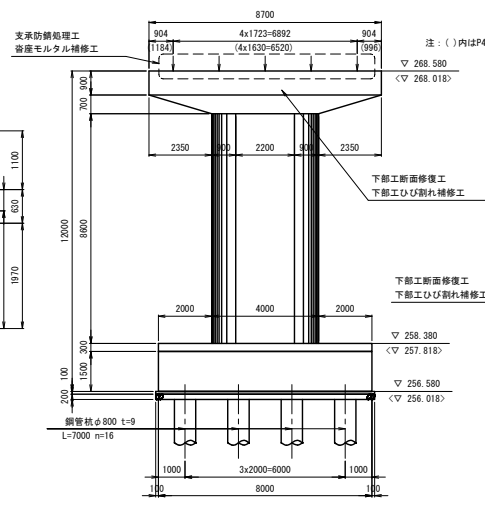
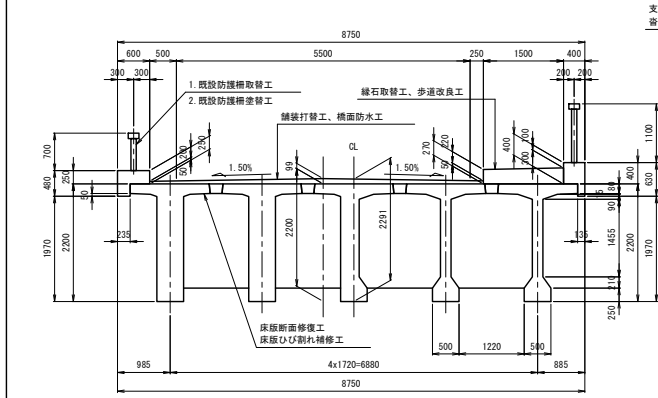
A2橋台 S=1:100

補修対策一覧

対策工	補修箇所
伸縮装置取替工	伸縮装置
鎮転機型塗装替工	橋面
鎮転機型塗装替工又は既設防護欄塗装替工	防護欄
照明基部塗装替工	照明基部
断面修復工	主桁、床版下面
ひび割れ補修工(注入工)(完填工)	主桁、床版下面
鎮転め定着部補修工	鎮転め定着部
支保防錆処理工	支保
管座モルタル補修工	管座モルタル
排水装置撤去・復旧工	排水管
断面修復工	橋台、橋脚
ひび割れ補修工(注入工)	橋台、橋脚

注記:
1. 施工前に必ず、現地計画を行って補修箇所、範囲形状等を確認し、現地状況と設計図面との整合を確認した上で施工すること。
2. 本図面は、既存資料・現地検測をもとに作成した図面である。

標準断面図 S=1:50



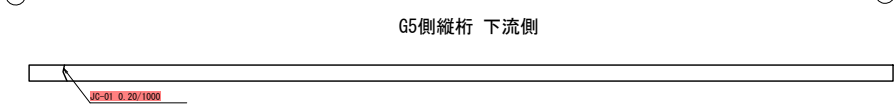
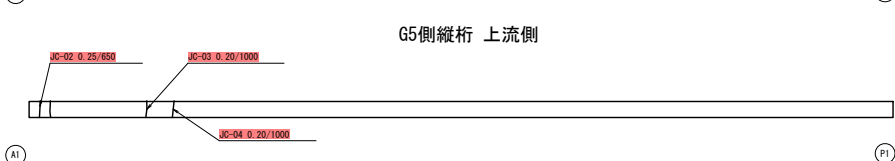
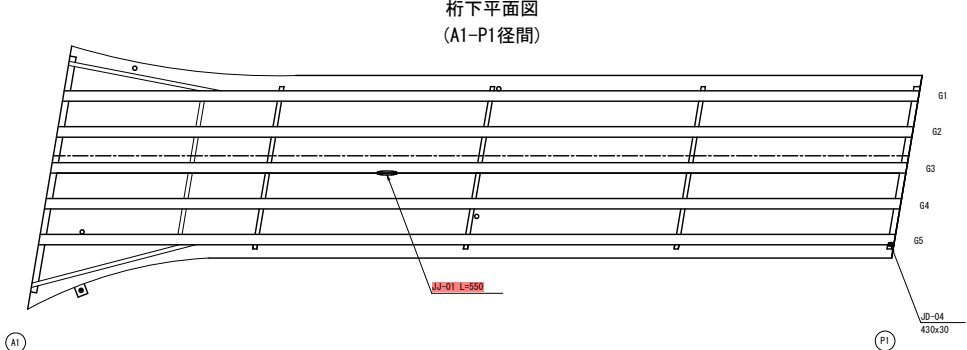
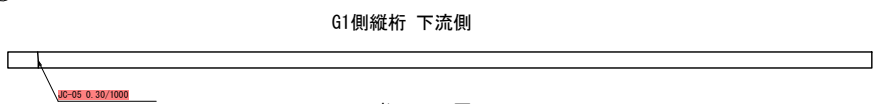
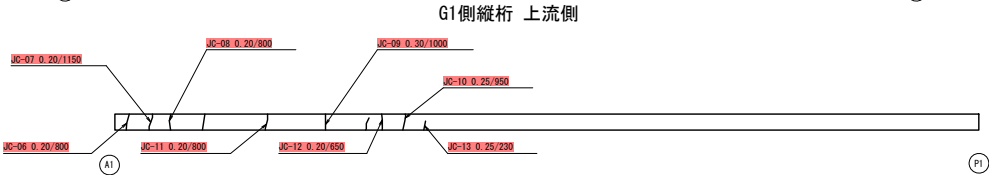
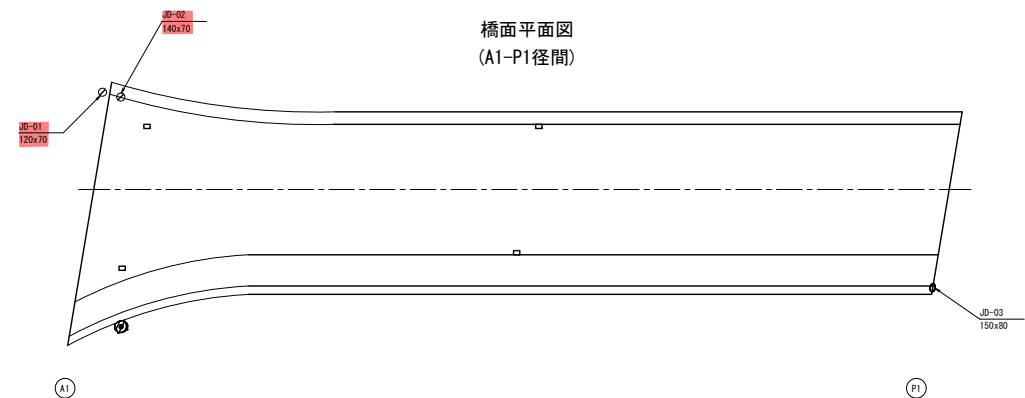
注: ()内は実測値を示す。

実施

工事名	市道 1-10号線
図面名	万年橋 補修工一般図
作成年月日	令和元年8月
縮尺	図 示 図面番号 72 / 117
会社名	
事業名	苗 吹 市

万年橋 床版補修工図(その1)

S=1:80



断面修復工 A 数量表 (鉄筋ケレン・防錆処理含む)

損傷箇所	No.	W × L × 平均深さ (m)	箇所	V (m3)
上部工	JD-01	0.120 × 0.070 × 0.070	1	0.0006
	JD-02	0.140 × 0.070 × 0.070	1	0.0007
	JD-04	0.150 × 0.080 × 0.070	1	0.0009
施工量合計			→3-2	→0.0022- 0.0013

断面修復工 B 数量表 (鉄筋ケレン・防錆処理含まない)

損傷箇所	No.	W × L × 平均深さ (m)	箇所	V (m3)
上部工	JD-03	0.150 × 0.080 × 0.020	1	0.0004
施工量合計			1	0.0004

ひび割れ補修工 数量表 (低圧注入工法)

損傷箇所	No.	延長 (mm)	幅 (mm)	深さ (mm)	本数	総延長 (mm)
上部工	JC-01	1000	0.20	150	1	1000
	JC-02	650	0.25	150	1	650
	JC-03	1000	0.20	150	1	1000
	JC-04	1000	0.20	150	1	1000
	JC-05	1000	0.30	150	1	1000
	JC-06	800	0.20	150	1	800
	JC-07	1150	0.20	150	1	1150
	JC-08	800	0.20	150	1	800
	JC-09	1000	0.30	150	1	1000
	JC-10	950	0.25	150	1	950
	JC-11	800	0.20	150	1	800
	JC-12	650	0.20	150	1	650
	JC-13	230	0.25	150	1	230
合 計		11030			13	11030

〔ひび割れ幅0.2mm～0.5mm未満〕

ひび割れ補修工 数量表 (充填工法)

損傷箇所	No.	延長 (mm)	本数	総延長 (mm)
上部工	UJ-01	550	1	550
合 計		550	1	550

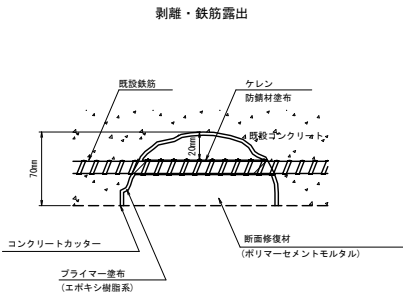
〔ひび割れ幅0.5mm以上、遊離石炭〕

- 注記
- 現場施工にあたっては現地計測を行い、寸法の決定を行うこと。
 - 前面修復、ひび割れの範囲は、「既往点検データ」、「現地踏査」等に基づき決めている。施工時は、劣化範囲の進展の可能性があるため、劣化状況を確認すること。
 - 既設部は、はつり層とすること。
 - カッター及びはつり作業時は、既設鉄筋等を傷つけないよう注意すること。
 - 本図以外の箇所でも同様の損傷を確認した場合、監督員と協議の上、対策を実施すること。
 - 断面修復後はかぶりを確保すること。
桁:35mm 床版:30mm

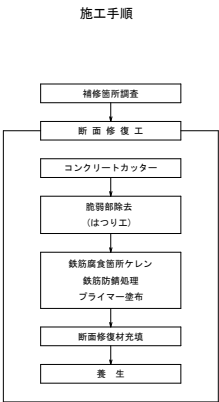
実施

工事名	市道 1-10号線			
図面名	万年橋 床版補修工図(その1)			
作成年月日	令和元年8月			
縮尺	図 示	図面番号	73	/ 117
会社名				
事業者名	苗 吹 市			

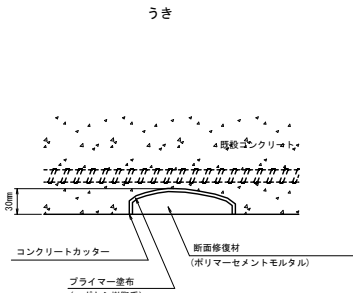
断面修復工A詳細図(参考)
(鉄筋ケレン・防錆処理を含む場合)



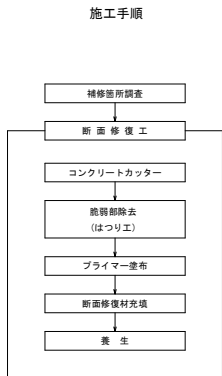
- ※ コンクリートのはつりは、損傷部を囲む長方形の範囲に対して深さ10mm程度コンクリートカッターにより切込みを入れる。
- ※ 脆弱部および鋼材の裏側までコンクリートをはつり取る。
- ※ 腐食した鋼材の錆を完全に除去する。
- ※ はつり深さについては、防錆処理をするために想定した深さであり補修箇所により実際は異なる。



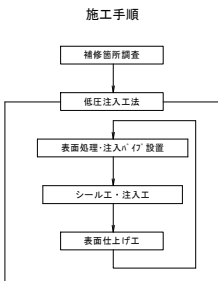
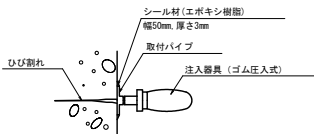
断面修復工B詳細図(参考)
(鉄筋ケレン・防錆処理を含まない場合)



- ※ コンクリートのはつりは、損傷部を囲む長方形の範囲に対して深さ10mm程度コンクリートカッターにより切込みを入れる。



低圧注入工法 詳細図



断面修復工 数量総括表(上部工)(鉄筋ケレン・防錆処理含む)

名 称	規 格	単 位	数 量	備 考
コンクリート段処理	無筋	m3	0.001	段運搬含む 参考質量 0.002t
断面修復材	8"ポリマーセメントモルタル	m3	0.001	
はつり		m3	0.001	

断面修復工 数量総括表(上部工)(鉄筋ケレン・防錆処理含まない)

名 称	規 格	単 位	数 量	備 考
コンクリート段処理	無筋	m3	0.001	段運搬含む 参考質量 0.002t
断面修復材	8"ポリマーセメントモルタル	m3	0.001	
はつり		m3	0.001	

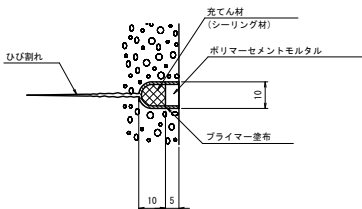
ひび割れ補修工 数量総括表(上部工)

工 法	名 称	単 位	数 量	備 考
低圧注入工法	ひび割れ長さ	m	11.0	
	注入材	kg	0.66	比重 1200kg/m3
	シール材	kg	1.69	比重 1700kg/m3
	注入器具	個	37	注入器間隔:300mm当り/本

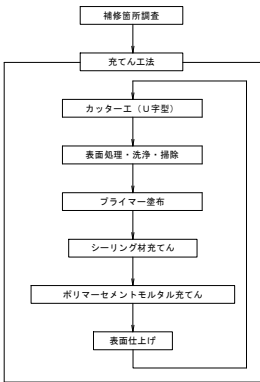
ひび割れ補修工 数量総括表(上部工)

工 法	名 称	単 位	数 量	備 考
充てん工法	ひび割れ長さ	m	0.6	
	充てん材	kg	0.09	シーリング材 比重 1700kg/m ³
	ポリマーセメントモルタル	m3	0.00007	

充てん工法 詳細図



施工手順



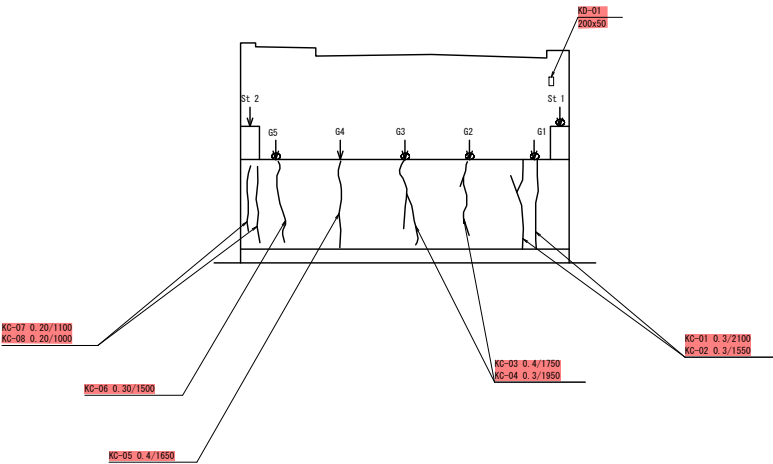
- 注記)
- 現場施工にあたっては現地計測を行い、寸法の決定を行うこと。
 - 断面修復、ひび割れの範囲は、「既往点検データ」、「現地調査」等に基づき決めている。施工時は、劣化範囲の進展の可能性があるため、劣化状況を確認すること。
 - 脆弱部は、はつり落とすこと。
 - カッター及びはつり作業時は、既設鉄筋等を傷つけないよう注意する。対策を実施すること。
 - 本図以外の箇所でも同様の損傷を確認した場合、監督官と協議の上、対策を実施すること。
 - 断面修復後はかぶりを確保すること。
桁:35mm 床版:30mm

実施

工事名	市道 1-10号線		
図面名	万年橋 床版補修工図(その5)		
作成年月日	令和元年8月		
縮尺	図 示	図面番号	77 / 117
会社名			
事業者名	苗 吹 市		

正面図

A1橋台



断面修復工A 数量表(鉄筋ケレン・防錆処理含む)

損傷箇所	No.	W×L×平均深さ(m)	箇所	V(m3)
下部工	KD-01	0.200×0.050×0.120	1	0.0012
	KD-02	0.100×0.100×0.120	2	0.0024
施工量合計			3	0.0012

ひび割れ補修工 数量表(低圧注入工法)

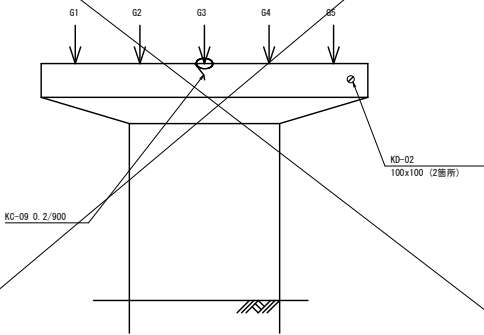
損傷箇所	No.	延長(mm)	幅(mm)	深さ(mm)	本数	総延長(mm)
下部工	KC-01	2100	0.30	150	1	2100
	KC-02	1550	0.30	150	1	1550
	KC-03	1750	0.40	150	1	1750
	KC-04	1950	0.30	150	1	1950
	KC-05	1650	0.40	150	1	1650
	KC-06	1500	0.30	150	1	1500
	KC-07	1100	0.20	150	1	1100
	KC-08	1000	0.20	150	1	1000
	KC-09	900	0.20	150	1	900
合計		13500			9	13500

(ひび割れ幅0.2mm～0.5mm未満)

正面図

P1橋脚

(A1側 正面図)

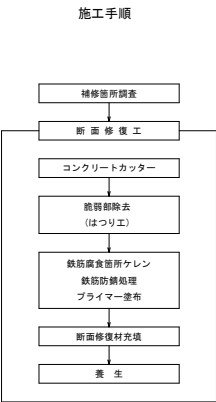
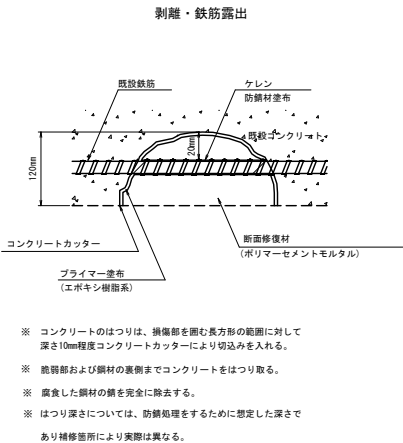


- 注記
- 現場施工にあたっては現地計測を行い、寸法の決定を行うこと。
 - 断面修復、ひび割れの範囲は、「既往点検データ」、「現地踏査」等に基づき決めている。施工時は、劣化範囲の進展の可能性があるため、劣化状況を確認すること。
 - 既設部は、はつり落として、新設部は、はつり落とすこと。
 - カッター及びはつり作業時は、既設鉄筋等を傷つけないよう注意すること。
 - 本図以外の箇所と同様の損傷を確認した場合、監督員と協議の上、対策を実施すること。
 - 断面修復後はかぶりを確保すること。
- 下部構造:70mm

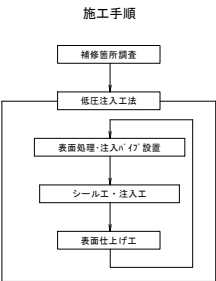
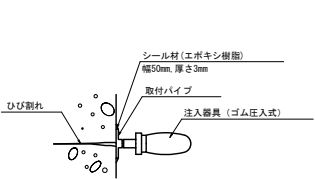
実施

工事名	市道 1-10号線		
図面名	万年橋 下部工補修工図(その1)		
作成年月日	令和元年8月		
縮尺	図 示	図面番号	78 / 117
会社名			
事業名	苗 吹 市		

断面修復工A詳細図(参考)
(鉄筋ケレン・防錆処理を含む場合)



低圧注入工法 詳細図



断面修復工 数量総括表(下部工)(鉄筋ケレン・防錆処理含む)

(1橋当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	備 考
コンクリート剥離処理	無筋	m ³	0.13	殺菌剤含む 参考質量 0.3t
断面修復材	ポリマーセメントモルタル	m ³	0.13	
はつり		m ³	0.13	

ひび割れ補修工 数量総括表(下部工)

(1橋当り)

工 法	名 称	単 位	数 量	備 考
低圧注入工法	ひび割れ長さ	m	41.8	
	注入材	kg	2.18	比重 1200kg/m ³
	シール材	kg	6.39	比重 1700kg/m ³
	注入器具	個	139	注入器間隔:300mm当り/本

- 注記)
- 現場施工にあたっては現地計測を行い、寸法の決定を行うこと。
 - 断面修復、ひびわれの範囲は、「既往点検データ」、「現地調査」等に基づき決めている。施工時は、劣化範囲の進展の可能性があるため、劣化状況を確認すること。
 - 脆弱部は、はつり落とすこと。
 - カッター及びはつり作業時は、既設鉄筋等を傷つけないよう注意すること。
 - 本図以外の箇所でも同様の損傷を確認した場合、監督員と協議の上、対策を実施すること。
 - 断面修復後はかぶりを確保すること。
下部構造:70mm

実施

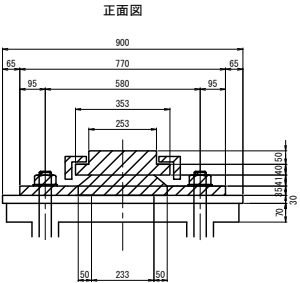
工事名	市道 1-10号線		
図面名	万年橋 下部工補修工図(その6)		
作成年月日	令和元年8月		
縮尺	図 示	図面番号	83 / 117
会社名			
事業名	苗 吹 市		

万年橋 支承防錆処理工図

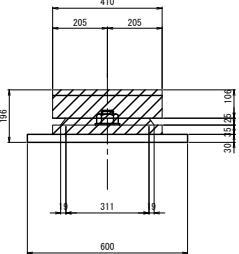
S=1:50

支承寸法図 S=1:10

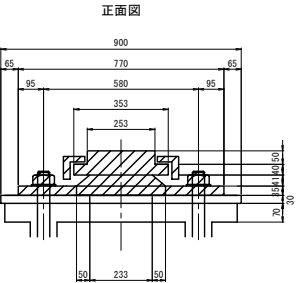
起点側



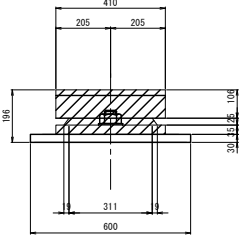
側面図



終点側



側面図



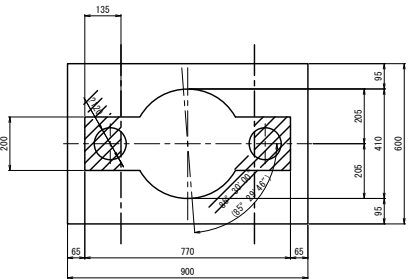
銷転換型塗装系

塗装工程	塗料名	使用量 (g/m2)	塗装間隔
素地調整	3種(3種B相当)		4時間以内
下地処理	下地処理剤	30	
下塗	銷転換型特殊エポキシ樹脂系プライマー	150	1日～10日
中塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	140	1日～10日
上塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	120	

塗装塗替工数量表

	規格	塗 装 部 位	面積 (㎡)
塗装塗替面積	銷転換型塗装系	支承	16.17
素地調整	3種ケレン	支承	16.17

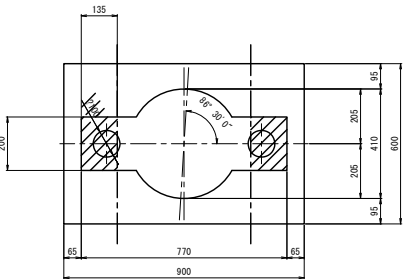
平面図



サイドブロック詳細 S=1:5



平面図



は塗装範囲を示す。

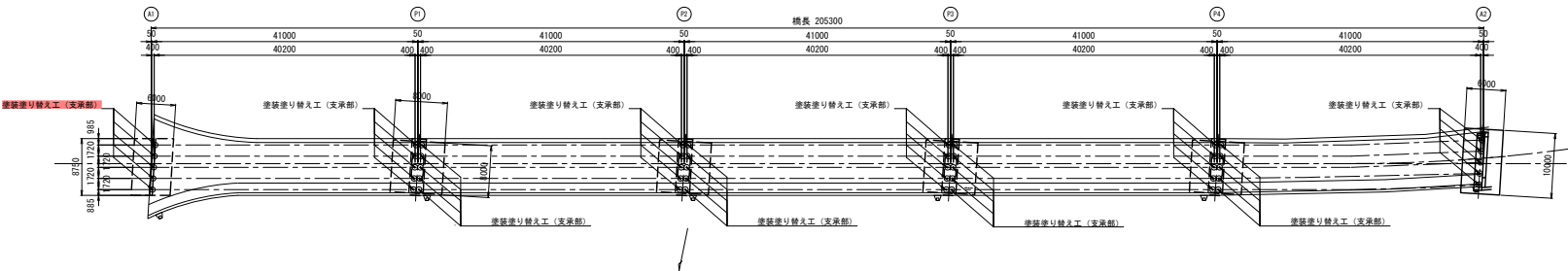
※()内は、A2橋台部の支承セット角を表す。

※支承寸法は推測値とする。

塗装仕様 支承部 (銷転換型塗装系 はけ・ローラー)

項 目	単 位	数 量	合 計
A1橋台	基	5	
P1橋脚	起点側	基	5
	終点側	基	5
P2橋脚	起点側	基	5
	終点側	基	5
P3橋脚	起点側	基	5
	終点側	基	5
P4橋脚	起点側	基	5
	終点側	基	5
A2橋台	基	5	

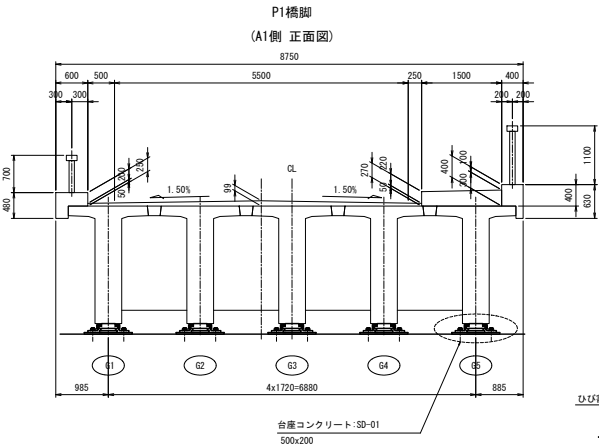
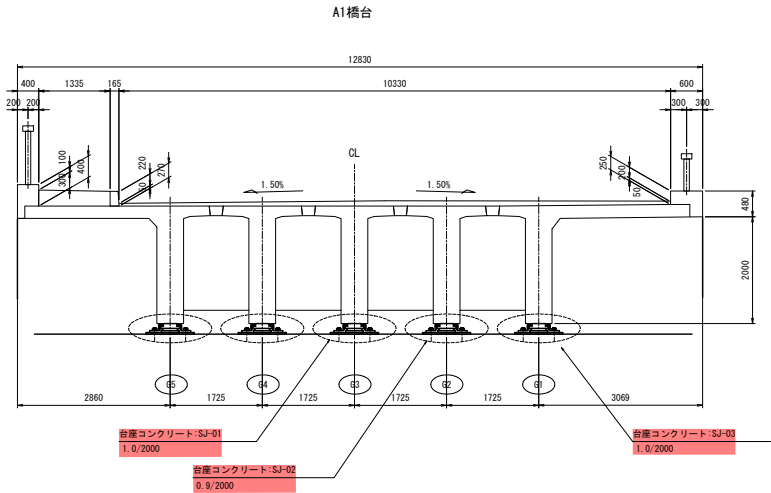
配置図 S=1:2400



実施

工事名	市道 1-10号線
図面名	万年橋 支承防錆処理工図
作成年月日	令和元年8月
縮尺	図 示
図面番号	90 / 117
会社名	
事業者名	苗 吹 市

正面図



台座コンクリート補修工(断面修復工) 数量表

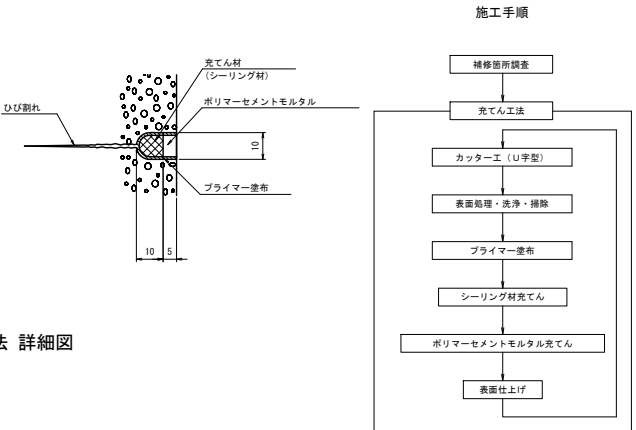
損傷箇所	No.	W×L×平均深さ(m)	箇所	V (m3)
台座コンクリート	SD-01	0.500×0.200×0.030	1	0.0030
施工量合計			1	0.0030

台座コンクリート補修工(ひび割れ補修工(充てん工法)) 数量表

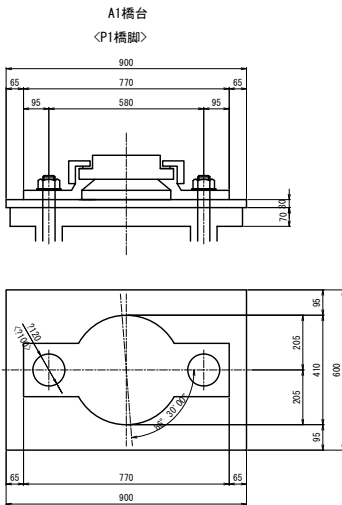
損傷箇所	No.	延長(mm)	本数	総延長(mm)
台座コンクリート	SJ-01	2000	1	2000
	SJ-02	2000	1	2000
	SJ-03	2000	1	2000
合 計		6000	3	6000

(ひび割れ幅0.5mm以上)

充てん工法 詳細図

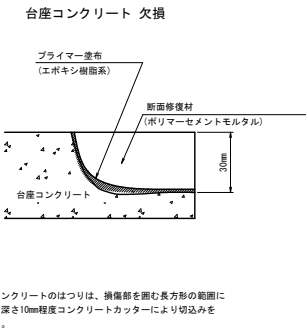


支承寸法図 S=1:10

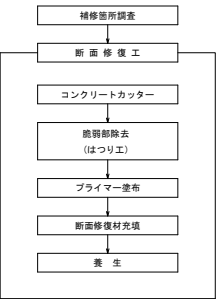


台座コンクリート補修工詳細図(参考)

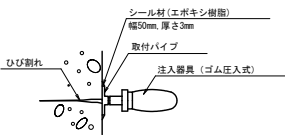
断面修復工B



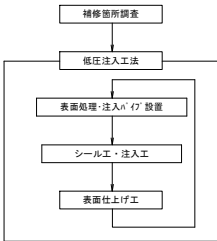
施工手順



低圧注入工法 詳細図



施工手順



- 注記
- 現場施工にあたっては現地計測を行い、寸法の決定を行うこと。
 - 断面修復、ひび割れの範囲は、「既往点検データ」、「現地調査」等に基づき決めている。施工時は、劣化範囲の進展の可能性があるため、劣化状況を確認すること。
 - 脆弱部は、はつり落とすこと。
 - カッター及びはつり作業時は、既設鉄筋等を傷つけないよう注意すること。
 - 本図以外の箇所と同様の損傷を確認した場合、監督員と協議の上、対策を実施すること。
 - 断面修復後はかぶりを確保すること。

実施

工事名	市道 1-10号線
図面名	万年橋 台座コンクリート補修工図(その1)
作成年月日	令和元年8月
縮尺	図 示 図面番号 91 / 117
会社名	
事業名	苗 吹 市